

M08b 科学衛星「ようこう」SXTによるプロミネンス突然消失の解析

殿岡英顕¹, 松元亮治¹, 宮路茂樹¹, S.F. Martin², R.C. Canfield³, 柴田一成⁴, A. McAllister⁵, K. Reardon³

(¹ 千葉大学, ² Helio Research, ³ Hawaii U., ⁴ 国立天文台, ⁵ HAO)

我々は Hawaii Univ. の Mees Solar Observatory の H α コロナグラフで観測されたプロミネンスデータを用い、それらを eruptive prominence, quasi-eruptive prominence, disappearing prominence, の3つに分類してきた。eruptive prominence はフィラメントの物質がコロナ上層まで吹き飛ばされる現象の分類で、disappearing prominence は上昇せずに流れ落ちるようにフィラメント物質が消えるプロミネンスの分類である。それに対して、quasi-eruptive prominence は一旦物質が上昇した後に流れ落ちるように消えていく現象を分類した。そのうち、eruptive prominence, quasi-eruptive prominence, に当たる物はようこう SXT でも変化が観測され、disappearing prominence においては SXT では変化が見られなかった。(95年春季年会)

今回は、ようこう SXT データと Mees H α データの重ね合わせを行なった結果と、プロミネンスによって引き起こされた、またはプロミネンスの引金となった現象の解析を発表する。